

科目名	教育心理学特講	担当者	イサカ ヒロコ 伊坂 裕子	期間	通年	単位数	4
-----	---------	-----	------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	近年，教育を取り巻く環境の変化が激しい。教育心理学が教育に貢献できる役割はますます重要となると思われる。この科目では，教育心理学の基礎的な知識・理論を理解し，教育実践の場で教育心理学の知見を具体的に展開する方法を考えることを目的とする。科学を志向した心理学では，価値的中立性を守ることが重要であるが，教育は本来的に価値志向的である。教育心理学は，単に心理学を教育に応用するものではないが，心理学の基礎的知識がなくては，理解できない。教育心理学の独自性に配慮しつつ，心理学の基礎的知識を理解した上で，教育心理学を学ぶ。また，それらの基礎的な知識・理論を，教育実践の場において具体的に適用する方法を考える。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 教育心理学の基本的テーマである発達，学習，学級集団について，心理学の知見に基づいた代表的な理論を理解する。 2) 動機づけ理論を理解し，学習意欲について動機づけ理論の観点から考える。 3) 動機づけ理論の観点から，学習意欲を育てる教育を考察する。 4) 自身の体験を教育心理学の枠組みの中で理解する。 		
学修方法	教材を理解したうえで，課題についてのレポートを作成する。作成したレポートに対しての担当教員からのコメントを理解し，レポートを修正する。これを繰り返すことによって，課題についての理解を深め，最終稿を作成する。		
スケジュール	<p>前期：教育心理学の基礎的知識・理論の習得 課題1，2は，どちらから始めてもよい。どちらの課題も，第一稿は，早め（8月中を目途）に提出し，担当教員からのコメントに基づいて，修正しながら最終稿を作成する。</p> <p>後期：理論の実践的適用（学習意欲） 課題1から始める。課題1で基礎的な理論を理解したうえで，課題2に進む。どちらも早めに第一稿を提出し（課題1は11月中，課題2は12月中を目途），担当教員からのコメントに基づいて，修正しながら最終稿を作成する。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	100%	<ol style="list-style-type: none"> 1) 課題に対応した内容となっているか 2) 取り上げた理論などが適切に理解され，自分の言葉で表現されているか 3) 具体例が適切か 4) 教員からのコメントを理解し，それに対し適切に回答しているか 5) 自身の体験や意見を述べる時，根拠となる事実が示され，客観的な検証がされているか 6) 参考文献，引用文献が適切に表記されているか
	平常評価	%	
履修者への要望	教育における諸問題については，多分野からの考察が可能である。また，すべての人が教育を体験しているので，各自の体験に基づいた知見を有する。しかし，この科目では，教育心理学の枠組みの中で問題を理解することに努めてほしい。教育心理学を理解するためには，心理学の基礎的な知識が必要となる。積極的に参考図書を活用し，心理学，教育心理学全般の理解を深めてほしい。課題をまとめるときには，直接引用はできるだけ避け，また，引用・参考文献は明記すること。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 教材名： 『ベーシック現代心理学 教育心理学 新版』（有斐閣，2003年） ISBN:978-4-64-108682-1 2,100円+税</p> <p>著者名： 土屋明夫（編著） 教材名： 『発達と学習—教育場面での心理学—』（八千代出版，2005年） ISBN:978-4-84-291374-2 1,800円+税</p> <p>2つの教材ともに、教育心理学の基礎的な知識を概説した入門書である。第一図書は、教育心理学の課題や立場、研究法について触れたうえで、発達、適応、学級集団、学習などの基礎的理論と、授業法、教育評価などについて実際の活用などを概観している。第二図書は、教育心理学のオーソドックスなテーマである発達、学習、学級集団、検査と評価の4点に絞って概説している。シンプルな構成であるが、それぞれについて代表的な理論を網羅している。</p>
参考図書	<p>大村彰道（編）『教育心理学Ⅰ—発達と学習指導の心理学』（東京大学出版会，1996年） ISBN:978-4-13-052072-0 2,500円+税</p> <p>下山晴彦（編）『教育心理学Ⅱ—発達と臨床援助の心理学』（東京大学出版会，1998年） ISBN:978-4-13-052074-4 2,900円+税</p> <p>森敏昭・秋田喜代美（編）『教育心理学キーワード』（有斐閣，2006年）ISBN:978-4-64-105885-9 1,900円+税</p> <p>鹿毛雅治（編著）『教育心理学の新しいかたち』（誠信書房，2005年）ISBN:978-4-41-430158-8 3,200円+税</p> <p>市川伸一（編）『現代の認知心理学5 発達と学習』（北大路書房，2010年） ISBN:978-4-76-282720-4 3,600円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材は、教育心理学について基本的な知識が概説されている。課題に直接関係する部分だけでなく、基本教材の全体を通読し、この分野の全体像を把握してほしい。また、参考図書に挙げた文献だけでなく、自らの興味・関心に応じて、巻末に示されている参考図書などにあたることで、より理解を深めることができる。レポートの作成にあたっては、直接引用はできるだけ避け、また、引用・参考文献は明記すること。</p>
レポート課題1	<p>発達における代表的な理論のうち、一つをとりあげ、概説すること。 留意点：その理論がカバーする領域などに注意し、日常生活に見られる具体例を考えながら、概説すること。また、他の理論との関係についても考慮し、その理論の批判にも触れる。</p>
レポート課題2	<p>学校教育の場で学習を支える人間関係として、1) 教師との関係、2) 仲間との関係（学級集団）のうち、いずれかを選び、それらが果たす役割について教育心理学の理論を用いて考察すること。 留意点：小、中、高等学校の教育実践の場を考える。学校教育における人間関係を捉える枠組みとして、基礎的な知識を学ぶことが目標である。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 市川伸一 教材名： 『学ぶ意欲の心理学』（PHP新書，2001年）ISBN:978-4-56-961835-7 720円+税</p> <p>学習意欲を動機づけの観点からわかりやすく取り上げている。古典的な理論の紹介から、著者独自の理論的枠組みまでも解説されている。後半は、著者とは異なる意見を持つ研究者との対談形式となっており、わかりやすい。</p>
参考図書	<p>デシ，E. L.， フラスト，R. 桜井茂男（監訳）『人を伸ばす力—内発と自律のすすめ』（新曜社，1999年）ISBN:978-4-78-850679-4 2,400円+税</p> <p>市川伸一『学ぶ意欲とスキルを育てる—いま求められる学力向上策』（小学館，2004年） ISBN:978-4-09-837371-0 1,400円+税</p> <p>無藤隆・市川伸一（編著）『学校教育の心理学 補訂版』（学文社，2012年）ISBN:978-4-76-202280-7 2,200円+税</p> <p>バンデューラ，A. 本明寛・野口京子（監訳）『激動社会の中の自己効力』（金子書房，1997年） ISBN:978-4-76-082283-6 6,000円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材1で学んだ基本的な知識を踏まえ、それらの知識や理論が教育実践の中で、どのように生かせるのか具体的にイメージしながら、考えてほしい。できるだけ具体的にイメージしながら、理解を深めてほしい。基本教材2はわかりやすくまとめられているが、それだけで満足せず、他の参考図書にもあたってほしい。基本教材1で挙げた参考図書は、どれも基本教材2の参考図書となる。</p>
レポート課題1	<p>学習における外的報酬の効果について、動機づけの観点から考察すること。 留意点：実験例などを示しながら、具体的に記述すること。また、それらが教育実践の場ではどのような形で表現されているか考えること。</p>
レポート課題2	<p>学習意欲を育てる教育について、動機づけ理論に基づき、具体的な工夫を考えること。 留意点：基本教材の著者の考え方を一方的に受け入れるのではなく、理論に基づき、自ら考えること。できるだけ具体的にイメージすること。</p>